



## 2019年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年1月31日

上場会社名 株式会社 JEUGIA

上場取引所 東

コード番号 9826 URL <https://www.jeugia.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼社長執行役員営業本部長 (氏名) 西村 昌史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員経営管理部長 (氏名) 山根 篤

TEL 075-255-1566

四半期報告書提出予定日 2019年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	5,514	2.0	50	4.5	53	23.6	17	0.5
2018年3月期第3四半期	5,625	2.3	48	44.4	42	49.0	17	51.1

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 31百万円 ( %) 2018年3月期第3四半期 67百万円 ( 17.5% )

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	21.36	
2018年3月期第3四半期	21.47	

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	5,034	2,212	44.0
2018年3月期	5,130	2,268	44.2

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 2,212百万円 2018年3月期 2,268百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		0.00		30.00	30.00
2019年3月期		0.00			
2019年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,450	0.7	80	47.1	78	36.3	30		36.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P6「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年3月期3Q	827,250 株	2018年3月期	827,250 株
------------	-----------	----------	-----------

期末自己株式数

2019年3月期3Q	4,836 株	2018年3月期	4,796 株
------------	---------	----------	---------

期中平均株式数(四半期累計)

2019年3月期3Q	822,417 株	2018年3月期3Q	822,619 株
------------	-----------	------------	-----------

(注)当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料のP2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、所得環境の改善などを背景に緩やかな回復基調が続くものの、大型台風や豪雨、地震災害などの影響や、米中貿易摩擦問題や世界経済の先行きに対する懸念が増し、金融市場が不安定になるなど、景気は先行き不透明な状況となっております。

このような状況下で当社グループは、8月1日に創業120周年を迎えました。9月には、創業のきっかけとなりました京都岡崎の地において、記念コンサートやハンドメイド作家総勢100以上が出店したハンドメイドフェスタを開催いたしました。また、11月には、記念イベントの締めくくりとして、京都出身の人気アーティストによるコンサートを開催いたしました。

当第3四半期連結累計期間においては、収益性の向上を図り、レッスン環境を充実させる為、5月に滋賀県大津市の音楽教室とカルチャー教室を近隣に移転統合し、10月には京都府舞鶴市の音楽教室を移転いたしました。また、京都府久世郡久御山町のショッピングセンター内の店舗では、会員数の増加を図る為に音楽教室を増床し、リニューアルいたしました。カルチャー教室では、12月に京都府京田辺市に新設された複合商業施設内に新規出店した一方で、川崎市川崎区の教室は8月の契約期間終了をもって閉鎖いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は55億14百万円（前年同期比2.0%減）、営業利益は商品粗利率の上昇に加え、減価償却費や固定費の減少で50百万円（同4.5%増）、経常利益は53百万円（同23.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は17百万円（同0.5%減）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### (音楽事業部門)

鍵盤楽器は、電子ピアノが堅調に推移したものの電子オルガンが大幅な減少となりました。管弦楽器は、春の需要シーズン向けのセールで店頭販売が金管楽器を中心に堅調な推移をしたものの、学校など公共機関向けの販売が減少いたしました。ギター関連は、エレキギターの販売が引き続き厳しい状況にありますが、利益率が改善したことで粗利益は前年同期並みとなりました。AVソフトは、コンサートやイベント会場での販売を積極的に行ないましたが、DVDの店頭販売が減少し減収となりました。

音楽教室は、中高生の個人レッスン会員が減少したものの、子供のグループレッスンや50～60代向けのレッスンが増加したことや、利益率の改善などにより堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は34億31百万円（前年同期比3.4%減）、セグメント利益は1億67百万円（同9.9%減）となりました。

#### (カルチャー事業部門)

全国各地の地域特性を加味したオリジナル講座の開発を積極的に進めることで独創性を強化し、新規会員の獲得と既存会員の継続率を高めました。

会員数は、6月に大阪府北部地震が発生し、9月に2度の大型台風が上陸したことでレッスン中止の影響が一部にあったものの、既存店の会員数が概ね前年同期を上回り、前期からの新規出店した教室も順調に会員数を増やしたことで堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は20億82百万円（前年同期比0.5%増）、セグメント利益は1億14百万円（同29.2%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は22億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ46百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が48百万円減少したことによるものであります。固定資産は27億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円減少いたしました。これは主に投資有価証券が69百万円減少し、投資その他の資産のその他が31百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は50億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ96百万円減少いたしました。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は18億86百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億76百万円減少いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が2億10百万円、支払手形及び買掛金が19百万円、その他が29百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は9億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億36百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は28億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ40百万円減少いたしました。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は22億12百万円となり、前連結会計年度末に比べ55百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益が17百万円、剰余金の配当が24百万円となったこと、その他有価証券評価差額金が48百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は44.0%（前連結会計年度末は44.2%）となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2018年10月31日の「2019年3月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	994,020	999,787
受取手形及び売掛金	187,916	139,635
商品	715,588	748,530
その他	423,308	387,198
貸倒引当金	△150	△480
流動資産合計	2,320,683	2,274,671
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	773,661	763,711
土地	738,114	738,114
その他(純額)	57,455	59,845
有形固定資産合計	1,569,230	1,561,671
無形固定資産	40,803	36,243
投資その他の資産		
投資有価証券	406,857	336,864
差入保証金	630,305	626,392
その他	195,476	226,840
貸倒引当金	△32,650	△28,200
投資その他の資産合計	1,199,990	1,161,898
固定資産合計	2,810,024	2,759,813
資産合計	5,130,708	5,034,484
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	464,115	444,628
短期借入金	404,000	410,000
1年内返済予定の長期借入金	567,747	357,747
引当金	48,000	24,000
その他	678,923	649,819
流動負債合計	2,162,785	1,886,195
固定負債		
長期借入金	499,547	740,084
退職給付に係る負債	122,363	114,205
その他	77,288	81,081
固定負債合計	699,199	935,371
負債合計	2,861,984	2,821,566
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	957,000	957,000
資本剰余金	985,352	985,352
利益剰余金	206,479	199,373
自己株式	△7,071	△7,124
株主資本合計	2,141,761	2,134,600
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	126,962	78,317
その他の包括利益累計額合計	126,962	78,317
純資産合計	2,268,723	2,212,918
負債純資産合計	5,130,708	5,034,484

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	5,625,983	5,514,434
売上原価	3,150,667	3,067,964
売上総利益	2,475,316	2,446,470
販売費及び一般管理費	2,426,792	2,395,774
営業利益	48,524	50,696
営業外収益		
受取利息及び配当金	5,370	5,510
受取手数料	1,362	686
貸倒引当金戻入額	—	4,480
その他	3,750	3,420
営業外収益合計	10,483	14,096
営業外費用		
支払利息	13,223	11,496
その他	2,882	280
営業外費用合計	16,105	11,776
経常利益	42,902	53,015
特別利益		
固定資産売却益	11,708	1,915
投資有価証券売却益	6,759	—
補助金収入	2,000	—
特別利益合計	20,467	1,915
特別損失		
固定資産除却損	11,534	455
災害による損失	—	5,413
減損損失	1,137	—
特別損失合計	12,672	5,868
税金等調整前四半期純利益	50,698	49,062
法人税等	33,037	31,495
四半期純利益	17,660	17,567
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,660	17,567

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	17,660	17,567
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50,125	△48,645
その他の包括利益合計	50,125	△48,645
四半期包括利益	67,785	△31,078
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	67,785	△31,078

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	音楽事業	カルチャー 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,552,627	2,073,356	5,625,983	—	5,625,983
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,039	175	5,214	△5,214	—
計	3,557,666	2,073,531	5,631,197	△5,214	5,625,983
セグメント利益	186,006	88,495	274,501	△225,977	48,524

(注) 1. セグメント利益の調整額△225,977千円は、全社費用等であり、主に各報告セグメントに帰属しない本社事務管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	音楽事業	カルチャー 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,431,686	2,082,748	5,514,434	—	5,514,434
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,395	116	2,511	△2,511	—
計	3,434,081	2,082,864	5,516,945	△2,511	5,514,434
セグメント利益	167,622	114,372	281,994	△231,298	50,696

(注) 1. セグメント利益の調整額△231,298千円は、全社費用等であり、主に各報告セグメントに帰属しない本社事務管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。